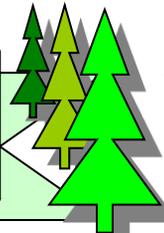


街路樹



「話すちから～伝えるコツ～」



「変わるべきは？」教育相談部

先日の生徒会長サミットでは「話すちから」をテーマにワークショップを行いました。講師である竹内さん(一般財団法人アルパ・エデュ)は、「日本の子どもたちに話すちからを身につけさせたい」と考え、プレゼン教育を通じた青少年育成活動を行っています。グローバル化やAIの進化等、社会が急速に変化する中で、それらと向き合い、課題を解決し、生き抜く力の育成が求められています。竹内さんは講話を通して、「自分の意見を持つことの大切さ」、そして自分の意見を相手に伝えるためのスキルである「プレゼンテーション能力」や「コミュニケーション能力」の必要性について述べていました。では、どのようにして自分の意見や思いを相手に伝えていけばよいのでしょうか。

「話すちから」ワークショップでは、相手に伝えるためのコツとして次のようなことを明確に指導されていました。

- ①伝える材料(情報)は深く掘り下げる
- ②自分の「好き」や「思い」を大切に伝えること
(自分の思いが強い内容の方が、伝わりやすい)
- ③話す順番を考えること(結論を先に伝える等)
- ④中学年でも理解できる分かり易い言葉で伝えること
- ⑤原稿は読まずに、聞き手をみる
- ⑥通る声で伝えること(練習が必要)
- ⑦資料は一枚のポスターのように情報を厳選すること



これらの視点は、私たちの授業における発問にも通じる部分です。そして、よりよい発問を行うためには、教師自身が子ども一人一人にどんな力をつけさせたいか、目標や指導事項を明確に意識することが大切です。2学期からの授業、先生方も「伝える」ということを意識して取り組んでみませんか？

参考:いわき生徒会長サミット未来創生事業「話すちから」講演内容
(一般財団法人アルパ・エデュ 竹内氏)

- ・心に余裕が持てるようになり、子どもを待てるようになりました。
- ・できて当たり前ことも褒めてあげると、子どもが前向きになることが分かりました。

これは、昨年度PT(ペアレントトレーニング)に参加した保護者の感想です。ここでのプログラムは、子どもの行動を直すためというよりは、親が子どもに分かり易く具体的で効果的な対応の仕方を身に付けることで、親と子がともに自己有用感や自尊心を取り戻し、日常生活がより穏やかにおくれるようになることを主眼に進めています。

子どもの困った言動は、本人が抱えている特性によることが多いようです。そのため、本人だけの努力で困難さを克服するのは大変難しいことです。本人に努力を強いることや叱責を繰り返すことは、自信を喪失させ二次的な問題に繋がる可能性を高める心配さえあります。周囲の適切なサポートがあれば、子どもの困り感を軽減させることができます。変わるべきは、周囲(特に親や教師)の意識なのではないでしょうか。

相談室では、子どものSST(ソーシャルスキルトレーニング)とその保護者を対象にしたPTを実施しています。(対象者は年度末に決定)

お問い合わせは、22-3709
(健康教育相談)へ



「プログラミング教育の実施に向けて」

令和2年度から、小学校においてプログラミング教育が完全実施となります。その背景としては、現代の社会において無くてはならないコンピュータについて理解し、上手に活用することが重要になってきたことと、これからの社会に対応する力としてプログラミング的思考を育成することが必要とされていることが挙げられます。

6月3日に文部科学省から出された「教育委員会等における小学校プログラミング教育に関する取組状況等について」によりますと、「プログラミング教育の授業を先行的に実施している」自治体等の割合が、前年度と比較して、平成30年度では52%と大幅に増加していると述べられています。しかし、本市を含めて実際の現場ではなかなか取組みが進んでいない状況が見られます。

そこで文部科学省では、全ての小学校における円滑なプログラミング教育実施に向けて、実践事例を紹介しています。

- ①「未来の学び プログラミング教育推進月間(みらプロ)」の実施
来年度からの完全実施を目指し、2019年9月を「未来の学び プログラミング教育推進月間」と設定し、この期間にプログラミング教育を行ってみようという取組みです。「未来の学びコンソーシアム」のHPには、たくさんの実践事例が公開されています。
- ②「小学校プログラミング教育に関する研修教材」の発行
授業ですぐ使える実践事例や、映像教材やテキスト教材がたくさん紹介されています。Scratch(スクラッチ)やViscuit(ビスケット)を使った実践例が分かりやすく説明されています。実践事例がかなり充実してきていますので、8月21日に行われるプログラミング教育研修の内容と合わせて、この機会にぜひ自校ではどのようにプログラミング教育を実施していくか、具体的に話し合ってみましょう。



未来の学び
コンソーシアム
HP QRコード